

分科会名	体育	開催日	令和6年6月12日(水)
------	----	-----	--------------

会場	川崎市立 幸町小 学校		
助言者	川崎市立 上丸子小 学校	西田 寛 校長先生	
助言者	中原区・教育担当	中本 淳子 指導主事	
司会者	川崎市立 久本小 学校	中村 誠 先生	
世話人	川崎市立 小倉小 学校	千葉 光 先生	
出席者数	101 名		

1 提案の概要

6年生 ボール運動 ベースボール型「ティーボール」～打って、走って、投げて 思いをつなごう次へ～

2 研究協議の概要

- 先生の価値付けの声が子供たちの仲間に対する声掛けにつながっていた。また、子供に思考させるような声掛けが良かった。
- 子供がゲームのルールを理解していた。○1プレー1プレーをどの子も自分ごとのように捉えていた。○子供の打球判断がとてもよくベースカパーに真っ先に行く子の姿もあった。
- 子供から出た「こうしたいという思い」を教師がまとめ、作戦として学級で共有していた。
- 知識・技能の指導について
 - ・4年生からの指導の一貫があった。(ルールや打つ、投げる技能の部分)○そのため今回の学習テーマもスムーズに子供たちの声から立てることができた。
 - ・ティーから1歩下がって打つように声を掛けていた。
 - ・その場面が見られたらすぐに指導、評価をしていた。○そうすることですぐに知識・技能を子供が身につけようとする姿が見られる。
- 残塁ボード、システムについて
 - 思考ツールの1つになっていた。また、チームの中で打順を考えることにもつながっていた。
 - 安全面について○ティーのすぐ後ろに残塁システムがあったので、バットを振るときにそれを動かしている子にあたってしまうのではないかと。
 - 場の工夫について
 - ・攻撃時や守備時にどこまで走れば良いか、どこに投げれば良いかが明確になっているため子供が迷わずにゲームに取り組んでいた。その場を子供の声を聞いてルールの工夫をさらにしていた。
 - ルールの工夫について○子供が主体的に学習に参加できるように、子供の声をもとに基本的なルールの変更を行っていった。
 - 学習テーマについて
 - ・学習テーマは子供から。イメージマップをもとに学習テーマに迫るための課題を学級全体で共有した。
 - 学習のふりかえりについて
 - ・1ゲーム目が終わったあとに全体で振り返った。そのときに「1点を取るため、守るためにはどうしたら良いか」というゲームを振り返る視点を示したことで、子供の思考を加速させていた。
 - ・「個人からチーム」という順番で振り返らせたのは、まずは自分の考えをもつため。また、次回に生かせるプレーをふりかえるように声をかけた。
 - チーム分けについて
 - ・思考・判断がよくできる子やサッカー、野球を習っている子、人間関係等をふまえてねらいをもって決めた。
 - 授業における下準備や授業を行う上での注意点などについて
 - ・授業前の下準備 ○事前アンケートで児童の実態を把握し、その実態に合わせてゲームのルールを子供たちと考えていく。
ゲームのルールの伝え方○スライドで伝え、実際のゲームの場面でも伝える。
 - ・授業中の立ち位置など○全員の良いところが見るように全体が見える場面に位置する。また、個人で指導が必要な場面ではその子に寄り添っていく。

<指導講評>

川崎市教育委員会 中原区教育担当 中本淳子 指導主事

- あつという間の45分だった。見ている人も夢中になるような授業だった。
- 守備時の味方同士の声掛けが良かった。また、その姿を引き出したのは、教師が子供のしようとする動きを価値づけていたから。やはりその瞬間に声を書けて価値づけていくことがとても大事。
- 「今の場面どうやったらいいの？」と教師が頻りに子供に声をかけていた。その声かけで4時間目と5時間目の姿に大きな違いがあった。
- 安全面的には危ない場面もあったが、校庭の大きさや子供の人数、運動量等を考えると難しい部分もある。ただ、子供たちは安全を意識した行動や声掛けをしていた。
- 授業時の教師の立ち位置、チームの決め方など、体育の学習の基本を、今回の授業を参考にしてほしい。

川崎市立小学校体育研究会 副会長 川崎市立上丸子小学校校長 西田寛 先生

- 子供の思いを教師が汲み取って、それを実現していた。
- 守備のときに、子供たちが自分の役割を意識して動いていた。
- ベースボール型の特性○1回1回場面の様子が違い、間がある。だからこそ守備に思考がいきやすい。
- 場の工夫○得点差、走者がどこにいるかが視覚化されていた。
 - ただし、打順と同じ番号のピブスが欲しかった。子供のチームの所属感につながっていく。
- 校庭の広さとコート面の数は学校事情によって変わってくる。○チーム数、人数の工夫が重要
- ルールや規則でボール運動の子供の動きは大きく変わってくる。だからこそ子供の実態に合ったルール、規則の工夫を。
- 得点の取り方○1塁で1点、2塁は2点・・・というルール ○かんたんでわかりやすい △たくさんの得点が入りすぎるため、得点に空白になりやすい
 - タイブレーク制 ○得点がたくさん入り、走者もいる △打つ人が次の人につながるという場面はあまり生まれにくい
- アウトの取り方○①アウトゾーンを設定する②防球ネットに当てる③ベースで判定する。などたくさん考えられる。
- フライアウトで守備に得点が入るといったルールもある。
- ふりかえりについて
 - ・体育の場合チームスポーツがある。そうするとふりかえりの仕方も変わってくる。チームスポーツの場合、単元の前半部分は個のふりかえり、後半はチームのふりかえりが良いのではないかと。
- 指導案について
 - ・A4 4枚におさめた。大事な部分は6. 単元構想の部分。単元をどのように作っていくかが

3 今後の課題

- 安全面について○学校ごとに校庭の広さや学級の人数が違うので難しい部分もあるが、最優先で考えていく部分である。

33333